



10月号

ひだまり

今月のエッセー

歩くような速さで



私の知り合いの中に、歩くのが好きな友人がいます。出かける時、その友人は自転車を使わずに歩いて移動をしています。駅と駅の間も一駅ぐらいなら歩いて移動しているのです。

私自身は買い物など外に用事がある時は、よく自転車を使っています。自転車や電車を効率的に利用した方が疲れず早く目的地に着けるのに、友人がどうしてわざわざ歩いて移動するのか不思議に思っていました。

あるときその疑問をぶつけてみると、友人はこう答えました。

「自転車や車は便利だよ。だけど、それ

修行体験記

「床板」

私が修行をしたのは、福井県にある大本山永平寺です。そこは作法に次ぐ作法の世界で、視線の位置まで「立っていけば一畳先、坐っていれば半畳先」とするよう指導されます。とは言っても、永平寺の全てが新しい新参者にとっては、どこに何があるのかも分からないので、つい辺りをキョロキョロ見回してしまいます。それが先輩の目に留まって厳しく叱責される、新参者のいる季節にはよく見られる光景です。

を見つめて過ごすようになりました。その結果、入門してから半年が過ぎ、修行生活に馴れ始めた頃には、永平寺内至るところの床の特徴を覚えてしまったのです。そして、その頃にはそれまで私を苦しめてきた様々な作法にも馴れ、ただ辛いばかりだった身体と心にも、わずかに余裕が生まれていたのです。

修行生活の中でも特に床に目を遣るのは、朝の雑巾がけの時です。永平寺の生活に馴れつつあった私。それに対して毎日変わらない床板は、雑巾がけの度に初心を思い出させてくれたのでした。

◆ 田代浩潤 たしろこうじゆん



編集後記

秋を迎え、窓から入る風が冷たく感じるようになりました。皆さん、いかがお過ごしですか？

秋の楽しみ方は様々ですが、私は「秋空の雲」を楽しんでいます。いわし雲やうろこ雲など、本当に様々な表情を見せてくれるのです。なかでも、夕日に照らされて真っ赤になった雲は、じつと眺めているとまるで赤い魚の群れが空を泳ぎ回っているような、そんな不思議な世界に私を導いてくれます。

季節の変わり目は体調を崩しやすいと言います。体調の変化に注意しながら、それぞれの秋を楽しんでまいりましょう。

◆ 竹村信彦 たけむらしんげん

発行 曹洞宗総合研究センター教化研修部門

〒一〇五・八五四四

東京都港区芝二・五・二曹洞宗宗務庁内

☎〇三・三四五四・六八四四

に乗っていると、建物の影や車の下にいたる大好きな猫や気に入った風景、面白そうな店を見逃してしまうんだ。」なるほどと思いました。確かに自転車や電車で移動すると、景色はあつという間に過ぎてしまいます。たとえ途中で気に入った店や風景があったとしても、急に立ち止まることはできません。

考えてみれば、よく利用する駅や店の場所はわかるけど、そこに向かう途中にどういった店があるのかは思いつきません。私は目的地に早く到着できる一方で、途中にある様々な出会いを見逃してしまっていたのかもしれない。

今の社会は、何事も素早く行動することが優先されているように思います。しかし急ぎすぎるあまり、大切なことに気づいていないのかもしれない。時には視点を換え、ただ先へ先へと急ぐのではなく、ゆっくりとした足取りで進むことも大切ではないでしょうか。今度の買い物では自転車を使わず、歩いて行こうと思います。きっとそこでは、新しい出会いが見つけれられるでしょう。◆ 中野太秀 なかのたいしゅう

法のお話



一年度
田中仁秀
たなかじんしゅう

『祖父と弟』

今年の春のことです。祖父が倒れたとの知らせが私のもとに入り、すぐに故郷の長野に帰省し、家族と病院に直行しました。「これが、最期になるでしょう。」

医者その言葉から、容体が良くない状況を察しながら集中治療室へ。二人ずつの面会ということで、弟と二人で入っていくと、呼吸マスクなどの治療器具につながっている祖父の姿がありました。

まず、私が語りかけました。しかし、意識もなく、会話が出来ない状況。涙が止まりませんでした。

次に、弟が語りかけました。すると驚いたことに、昏睡状態であった祖父の目が開き、僅かながら弟の方に顔を向けてきた。

です。そして、最期にゆつくりと「しつかりやっていきなさい。」という言葉を残して、静かに目を閉じました。弟は祖父の言葉を聞いて、涙を流しながら、「うん。分かった。」と声をかけていました。

それが、私たちと祖父との最期の瞬間となりました。

私は、なぜ弟が語りかけた時にだけ、祖父が反応したのか、何となく納得しておりました。

祖父の家は実家から車で三十分の所にあります。弟は畑の手入れや食料の調達、身の回りの整理など、何年にも渡って、毎日の様に通って世話をしていました。

また、ある時は旅行好きであった祖父と一緒に becoming、車椅子を押しながら旅行にいったこともありました。そのことを知っていた私は、最期の瞬間を目の当たりにして、祖父と弟との間に強い絆を感じたのでした。

祖父が亡くなってからというもの、弟は祖父の「しつかりやっていきなさい。」という最期の言葉に感化されて、生まれ育ったお寺の後継ぎとして、以前にも増して精進しています。祖父に対して、何

年にも渡って尽くしてきたその行為が、弟自身にも何か大切なことに気づくきっかけとなったのでしょうか。

私はこの一件を通して、以前弟と話した何気ない会話をふと思い出しました。「どうしていつもそんなに祖父の世話を頑張れるんだ？」

「え？別に理由なんか無いよ。」

当時はそんなに気にもとめていなかったその言葉が、今となってはたいへん重要なことだったのでないかと感じます。

私たちは何かにつけて「何でそんなことをやらなければいけないのか？」と理由を求め、他者に対しても、見返りを期待し、打算的な気持ちで行動してしまいがちです。しかし、弟が祖父に対して長年行ってきた行為は、そんな損得勘定を抜きにしたものでした。私はその行為の積み重ねによって生まれた強い絆に、今度は弟が背中を押してもらっているのだと感じました。

今回の祖父と弟との関係性を通して、私は、他者のために行なう行為は、他者のためだけでなく、それを行なった者にもその行為が巡り、育まれていくのだ、と深く考えさせられました。

いろんな仏様

『閻魔大王』

えんまだいおう



今回ご紹介するのは、あの「嘘をつく舌を切られる」で有名な『閻魔大王』です。閻魔大王は、古代インドでは「ヤマ」という神様であり、人類最初の男性、そして世界最初の死者であったとされています。死後の世界の先駆者ヤマは、死者の生前の行いによって罰を下す神様となりました。

やがてこの思想が中国に伝わると、ヤマは中国仏教と密接に関わりあう「道教」の地獄観に取り込まれ、私たちのよく知る地獄の裁判官「閻魔大王」となったのです。

さて、恐ろしいイメージの閻魔大王ですが、実は慈悲深い「お地藏様の化身」だと言われています。仏様は私達が罪を犯さぬよう、恐ろしい姿を借りて警告しているのです。この世のあちこちでお地藏様として人の苦しみを救う一方、地獄では顔で怒って、心は泣いていらっしやるのかも知れませんね。◆畔柳公潤



私の〇〇自慢



『とら食堂』



福島のご当地ラーメンと言えば喜多方ラーメンが有名ですが白河ラーメンも負けてはいません。今回ご紹介するのは白河ラーメン元祖のお店である「とら食堂」です。私の知っている白河ラーメンのお店の中で、このラーメンが一番オススメです。職人が丹精込めて作る手打ち麺のつるつるとした食感、本場でしか味わえない旨さがあります。スープは地鶏を数種類使った醤油ベースで、コクとキレのある味わいが麺と絶妙に絡み合っています。チャーシューも炭火で燻製してあり、噛むほどに旨みが増す一品です。

「とら食堂」は今年の一月にフランス・パリで開催された「パリ・ラーメンウィーク」というイベントに参加しました。世界的にも私の好きなラーメン屋の知名度が上がってきていることを嬉しく思います。

◆國生徹雄